

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4490900018		
法人名	社会福祉法人 積善会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	豊後高田市呉崎775-10		
自己評価作成日	平成29年7月31日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年10月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

劇団「白ねぎ隊」を通じて認知症の啓発活動に取り組んでいます。お一人お一人の入居者の想いを大切に今できることを一緒に行いワクワクすることを届けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者様とのかかわりは暖かい声掛けや尊厳を持った対応で、穏やかに楽しく生活している様子がうかがえる。小学校との交流が密で、色々な行事に参加したり小学生の訪問も受けるなど、また多くのボランティアの方の訪問があり、日々充実し、地域に溶け込んでいる。誤嚥性肺炎をゼロにしたいとの思いから毎食前に口腔体操を実施するとともに、全職員に対し専門の講師を招いての講習も行っている。天気の良い日は外出、散歩に出かけたり、洗濯干しや思い思いのことを好きなようにしながら、職員が寄り添う支援が当たり前となっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・廊下に掲示し職員の名札に記載して意識づけをしている。	法人理念、グループホーム自体の理念を玄関に掲げている。職員の名札の裏にも理念を記載し共有している。一人ひとりに適した支援で、安心して暮らせるよう活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校の行事に毎年参加させて頂いている。ボランティアの方との交流を毎月持ち地域の方との繋がりを大切にしている。	地域の小学校との交流が多く、運動会や入学式に参加し利用者の方があいさつをしてプレゼントを渡している。また毎月ボランティアの方の訪問があり、楽しみにしている。自治会にも加入し地域のお祭りに参加したり、みこしの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内で毎月オレンジカフェと認知症を考える会を毎月開催している。認知症の方が笑顔で過ごせるように接し方や理解を深めている。演劇を通し認知症啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催しており活動報告を行っている。参加者の意見を反映している。	毎回自治会長、老人会、入居者家族、入居者の参加があり、活動の報告はもとより、感染症の話、避難訓練、劇の依頼など様々な情報ももらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年に4回やすらぎ便りを発行しており行政に配布している。	主催しているオレンジカフェに行政の参加があり、色々話をしている。演劇参加の交渉や入居の受け入れ等の相談もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束委員会を開催しており共有認識を図り身体拘束をしないケアに努めている。	玄関を解放し、出かけた人がいると職員と一緒に寄り添い歩いている。言葉の大切さも掲示し気を付けるとともに、研修も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会に参加してケアの在り方を振り返っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて理解を深める機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時にご家族に説明して同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設けている。家族会や面会時に要望を聞き取り運営に反映している。	家族会があり、意見を出しやすい気配りをしている。また面会時にも口頭で言いにくいことも言ってくれる。例えば湿気が多いとの指摘で、エアコンのメンテナンスにつながった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の個人面談を行い職員の悩みや意見を聞く時間を作っている。	個人面談を行い、思っていることや意見、また心配事や不安なども聞き、相談に乗っている。リーダーがいてリーダーを通じても意見を出し合っている。勤務体制の相談も受け、職員の思いに沿うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や勤務時間を配慮して下さっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加させて頂ける環境である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質向上委員会を設け法人内全体で取り組んでいる。部署内での悩み等相談し情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族が入居に対して不安を感じている時は要望を十分にお聞きし不安の軽減を図り信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネがサービス導入までの経緯についてゆっくりとお聞きし、家族が困っている事、不安に思っている事を把握し、要望に応えられるように信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況等、十分に確認しながら関係機関担当者等とも協議しあい、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋がられるように対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方々は人生の大先輩であり生活歴等把握した上で職員が情報共有し利用者と共に食事作り、洗濯、屋内外活動等を行いながら「想い」に添って信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時利用者の暮らしの出来事や気づきを報告し施設での活動の写真と園便りを送付し情報共有に努めている。家族に対応方針を報告しながら納得して頂ける支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人や知人、親戚など面会に来られる。ドライブ等利用者の望まれる場所をお聞きし故郷方面へ出かけている。	家族の方から馴染みの場所を聞いたり、レクの際に本人から聞き出し、お墓参りや、スーパーに出かけたりしている。また小学校とも密な交流で、馴染みの関係が出来ている。オレンジカフェも馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共有場所でレクや洗濯、食事の準備等と一緒に出来る様、雰囲気作りや環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、転院された方がいても関係機関との情報交換等行い定期的にお見舞いに行き、様子を伺っている。亡くなられた方もおられ、お通夜、葬式にも参列させて頂いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で声を掛けご本人の意向の聞き取り、把握に努めている。又、聞き取りの難しい方には昔得意だったことや趣味を實踐し、シートに記入し本人本位の検討を行っている。ご家族にも意向を聞いている。	家族や本人からの聞き取りがあり、その人らしさを把握して、一人ひとりの出来ること好きなことを大切にしている。アセスメントでは支援シートを一番上に置き、本人の出来ることを見つけ出す工夫をし、支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に出来る限りこれまでの生活歴・個性や価値観等の情報を伝えてもらい職員全員が共有できるように努めている。ご家族参加のカンファレンスを開き、昔の事などを聞き、職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護計画書を各勤務者がチェックし現状把握するように努めている。又、新たな発見があった場合は職員全員が共有できるように伝達、スタッフミーティングで報告を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の職歴やこれまでの経験、得意な事を活かし入居者の方やご家族の思いが反映できるように職員同士が共有を行っている。	スタッフ会議の中で話し合い、意見を出し合っている。モニタリングは担当職員が毎月行い、本人、家族の思いを中心に介護計画を作り、その人らしさや生きがいに繋げることが盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、カンファレンス時に担当職員より実践状況を聞きそれを基に介護計画書の評価や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況を踏まえ通院等、必要な支援を行っている。又、一人一人のニーズに応えられるようにスタッフが外出支援の付き添い等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ各関係者から地域資源の聞き取り把握を行っている。又、地域の方にはグループホームを知って頂き協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の付き添いが可能な場合は職員も付き添いを行い状態を細かく伝えるように行っている。受診後は家族・職員間で情報共有を図っている。協力医療機関が往診を行っている。	入居前に利用していた医療機関の継続利用もあるが、訪問医療もあるので家族の要望で移行した人もいる。専門医療が必要な時は家族とともに受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内に看護職員がおり急変時等の支援を受け入れられるように体制をとっている。又、日頃より連携を図り入居者の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院中、定期的に面会を行い、入院中の生活状況が把握できるように対応している。又、早期の退院が出来るようにご家族の意向を含め入院先医療機関との連携を深め調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や終末期の希望を確認し記録として残している。又、退院後意向の把握と今後の方向性を相談する場を設けている。	看取りはしない方針ではあるが、重度化防止のために、口腔ケアの支援を大切にしている。急を要する時の対応について職員の研修を実施している。協力医との連携も密で信頼関係が出来ており、いつでも来てもらえる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥吸引、タッピング方法、外傷等の応急処置は対応できるように研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導で避難訓練を行い1回は夜間想定で火災訓練を行っている。月1回施設内で避難訓練の実施を行っている。運営推進会議を通じ災害時の協力を依頼している。災害時の備蓄を行っている。	職員の中に防災士もおり、避難訓練を定期的に行っている。また防災マップを掲示し、防災計画に沿って避難誘導している。風水害に関しても避難場所をきちんと設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報の漏洩が無いよう個々の情報は外部の目に触れない場所に保管してある。排泄誘導の際には声掛けをその方の耳元で行い、入浴や更衣の際も人目に付かない場所で行っている。	声掛けは優しく、敬語を基本としている。ゆったりとした声掛けで穏やかに、年上の方としての尊厳を大切にしている。書類は見えないところに大切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や生活する中で個々の希望の聞き取りを行い、より本人の希望に添ったレクリエーションを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のその日の体調や気持ちを優先し、その方らしい生活が日々送れるように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことができる方にはその日の服等を選んでいただけるように配慮し、個々の尊重を図っている。女性はお化粧をしたり、男性は起床時髭剃りを実施して整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個々の好みを聞き取り、利用者様の状況に応じ提供を行っている。毎週1回レストラン形式の昼食を提供している。	毎週土曜日のお昼は、好きなもの、食べたいものを自分たちで作っている。オレンジカフェでは地域の方と楽しく食事をしたりおしゃべりをしている。またお誕生日の夕食やお出かけしたときの支援が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を毎日記録し、職員全員で共有し記録に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力や口腔状態に応じた声掛けや介助、見守りを行い口腔内の観察を行うと共に必要時歯科訪問診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを全職員で把握し、その方に合った時間帯で声掛け・トイレ誘導をし、自立にむけた快適な支援を行っている。必要があればその方の自立度に応じた排泄物品を使用している。	排泄時の声掛けは優しく小さい声で行っている。排泄パターンや動きやしぐさも把握し、出来るだけトイレ誘導で自立した支援を心がけている。夜間も3、4時間毎に声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を毎朝1杯と10時のおやつにバナナジュースを提供している。体操を一日2回設け体を動かして頂いている。排泄には腹部マッサージを行い排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人に合った時間に入浴していただいている。入浴前・入浴中にしっかり声掛けをし、快適な入浴時間を過ごしていただけるよう配慮し、入浴後は整容・水分提供をしリラックスしていただけるよう配慮している。	本人の要望を大切に、朝、昼、夜に対応している。今日入らなければ明日にと、臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方よりアロマ音楽を流し入眠を促す。居室の温度調整を行い、眠れない時は温かい飲み物を提供し入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間でお互いに服薬する方の日付・名前を声に出して薬袋の確認を行い、服薬後も飲み込みの確認を必ず行ってから離れる対応をしている。服薬後飲み残し、名前を声に出して薬袋の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の体調や、その時の気分に合わせて得意なことや好きなことを活かして日常を過ごしていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や買い物散歩など、ご本人の希望を取り入れながら外出を楽しめるよう工夫していく。	職員と犬の散歩や近くの金毘羅様へのお参り、スーパーでの食材の買い物、季節のお花見、近所をぶらりと様々な希望される場所へ外出できるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は基本お預かりしていません。買い物に職員と一緒にいければ必要時は立替をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に年賀状や手紙を書き、送られている。ご希望があれば電話をかけていただく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔にし整理整頓を意識し綺麗な空間で過ごして頂けるよう努めている。季節を感じて頂けるように季節の飾り付けや行事・外出があった際は写真などを飾り思い出作りに努めている。家庭で過ごしているような雰囲気を感じられるよう環境作りに努めている。	楽しかった写真などや、担当職員で考えた季節感のあるものを飾っている。ボランティアの参加でハロウィンパーティを催し、かわいらしい飾りつけで楽しんでいる。また新聞や雑誌、ギターや歌詞カードなども備え、思い思いにくつろげるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、テレビをゆっくり見られるようにソファを設置している。料理を好まれる方には、米研ぎや一部副食の盛り付けをして頂いている。洗濯物をたたんで頂くなど生活の中で活かしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた家具や食器を持参されている。家族の写真や季節感のある飾り付けをし、安心して暮らして頂けるように配慮を行い、換気や加湿などにも気を配り環境作りに努めている。	タンスや小物など、担当職員が本人の好きなものを置き、落ち着いた空間となっている。また衣類はその日の状態に応じたものが選べるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、「トイレ」と書いたり貼り紙をし、トイレ内にも「指を挟まない様に気を付けて下さい」との貼り紙をすることにより、注意を呼び掛けている。物の配慮にも気を配り危険防止の為に環境整備に努めている。		